

学会企画シンポジウム 2

いじめ対応の新たな展開

——ICT・国際的共同・新たな理論から考える——

企画・司会	：伊藤美奈子（神戸女子大学）
企画・話題提供	：戸田有一（大阪教育大学） 集合的道德不活性化と Healthy Context Paradox
企画・話題提供	：加藤弘通（北海道大学） アプリによるいじめ対応とその成果
話題提供	：金綱知征（香川大学） いじめ対策に関するアジア諸国との共同
指定討論	：新井 肇（関西外国語大学）

企画趣旨：

いじめは、単なる個人間のトラブルではなく、集団規範、学校文化、社会的文脈と深く結びついた複雑で構造的な課題であり、個々の学校や教師の努力だけでは予防・対応が難しく、理論、実践、そして制度の連携が不可欠である。本企画では、「いじめ対応の新たな枠組み」を、テクノロジーによる実践支援、国際的・比較的視点、そして理論的基盤の三つの側面から再検討することを目的とする。まず、加藤（北海道大学）は、学校現場で活用されているアプリによるいじめ対応の実装とその成果を報告し、データとテクノロジーが現場の判断や連携をどのように支え得るのかを示す。次に、金綱（香川大学）は、いじめ対策をめぐるアジア諸国との共同研究や交流の知見をもとに、日本のいじめ問題を国際的文脈の中で捉え直し、その特徴と課題を明らかにする。さらに、戸田（大阪教育大学）は、集合的道德不活性化および Healthy Context Paradox という理論的枠組みを紹介し、「対策が進んだ環境」で残ったいじめが深刻化する問題を論じる。本企画では、これら三つの視点を通して、いじめ対策の構造的な介入としての再構築を展望する。最後に、新井（関西外国語大学）が指定討論者として、臨床・実践・研究を架橋・統合する視点から討論を深める。本シンポジウムを通して、いじめ対策を「個別対応」から「集団と文脈に働きかける仕組み」へと発展させるための、新たな理論と実践の可能性を共に探る。